

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年5月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム お母さんの家	ユニット名	1F
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2297-17		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0870101524-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成25年12月6日	評価機関 決 済 日	平成26年5月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然環境が多く残っている地域の中で一つの家族として共に暮らし自分らしく又、それぞれの役割をもって生活していただいております。施設の敷地内に畑があり季節ごとに種まきから成長の段階を日々の散歩時に楽しみ、収穫も利用者、職員と一緒にいきそれを調理し旬の味を楽しんでおります。ゆったりとした日々の中可能な限り自立した生活、笑顔の絶えない毎日が送れるようサポートしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

近隣に日本赤十字社の乳児院や市の保育園があり、乳児院の子ども達が散歩の途中に事業所に立ち寄り、事業所の敬老会や誕生会の行事に保育園児が来訪しているほか、利用者が保育園の運動会に招待されて玉手箱の種目に参加するなど、子ども達や地域社会と双方向的に交流し、利用者の楽しみとなっている。
代表者や管理者は職員とのコミュニケーションを密にし、運営に対する意見や提案を出し易い環境づくりに努めている。
共用空間は明るく清潔に保たれており、職員は利用者の人間としての尊厳を守り、優しい介護を提供するという理念のもとに、安心して暮らし続けられるよう支援に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス理念を全職員で作成し玄関、事務所に掲示し職員一人一人が意識し適切なケアを支援している。	「全ての高齢者に愛情と尊敬を持ち、人間としての尊厳を守り優しい介護を提供致します」を基本理念とし、「地域に愛され信頼されて、自分らしく安心して暮らし続けられる生活を支援していきます」との地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作成している。 理念を玄関や各ユニットの事務所に掲示するとともに、月1回のミーティング時に話し合い、全職員で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高校生のボランティアを受け入れたり近くの保育園とはお互いの行事に参加し交流を深めている。当ホーム主催の夏祭りが地域の人々との最大の交流の場となっている。	利用者は散歩時に近隣住民と挨拶を交わしているほか、近隣にある乳児院の子ども達が散歩の途中に事業所に立ち寄っている。 郵便局員のボランティアが年1回来訪し、歌や鍵盤ハーモニカの演奏、フラダンスなどを披露しているほか、事業所の敬老会や誕生会などの行事に近隣の保育園児を招待したり、利用者が保育園の運動会に招待されて玉手箱の種目に参加するなど、双方向の交流をしている。 近隣の高校生が年1回来訪し、利用者の話し相手になっている。 職員が地域の清掃活動に参加するほか、近隣の小学校での防災訓練に参加したり、子どもの日やクリスマスには近隣の保育園や乳児院に菓子の詰め合わせなどを届けて喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のすぐ近くに住まわれている2名の運営推進委員の方がいますので会議の中で取り上げていますがまだ具体的にないがいつでも気軽に声をかけて頂けるように働きかけて行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の代表、地域の代表、市職員、近隣のグループホーム施設長、ホーム職員計9名が参加し2か月に1回開催すると共に出了意見をサービスの質の向上に生かしてる。欠席の委員には議事録を送付している。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域包括支援センター職員、長寿会の会長、民生委員、近隣のグループホームの施設長を委員として2ヶ月に1回開催している。 会議では事業所の状況や行事、外部評価で明らかになった課題について報告するとともに、非常食の試食会を行いながら意見交換や話し合いを行っている。 市職員や地域包括支援センター職員から地域の福祉についての情報を得るほか、委員から他事業所の様子を聞いて参考にするなど、話し合いの結果をサービスの質の向上に活かしている。 欠席の委員には議事録を送付して会議の様子を伝えている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携は事務的なものとなっている。	市職員が毎回運営推進会議に出席している。管理者は市主催の研修会に参加した時や事業所の状況を連絡する際に、運営上の問題点や利用者に関する相談をして助言を得るなど、協力関係を築いている。事業所の代表が市のグループホーム連絡協議会の会長を務め、市との連携に貢献している。事業所に認知症地域サポート相談窓口を設け、常時近隣住民の相談を受け入れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の事を良く理解しており利用者様の人権を守るケアに取り組んでいる。建築構造上施錠はあるが日中はドアを開けておくなど施錠の工夫（居室は鍵をかけないなどのケアに取り組んでいる）はしている。	管理者が身体拘束排除に関する外部研修を受講し、全職員に資料を回覧して周知を図るとともに、マニュアルを作成したり、身体拘束廃止方針のポスターを掲示したりしているが、内部研修を実施して職員の共通認識を図るまでには至っていない。 身体の安定を保つことができないため、家族等に説明して同意を得たうえで、時間を限定して身体拘束を行っている利用者があるが、職員で話し合いを繰り返しながら経過を観察したり、検討したりするまでには至っておらず、経過観察記録や検討記録などの書類も作成するまでには至っていない。	身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し、少しでも早く拘束の状態を解けるよう経過観察記録や検討記録などの書類を準備し、状況変化に応じた話し合いを繰り返しながら、身体拘束をしないケアに取り組むことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加、ミーティング、カンファレンスを行い職員全体で高齢者虐待防止関連法の事を学び理解しており一人一人が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修に参加し日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。現在、利用者で活用している方はいらっしゃらないが必要性が生じた場合は活用して行きたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険分と自己負担分の説明、又、該当時の加算項目や入居時の条件など丁寧に説明をし納得された上での契約となっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望を汲み上げている。重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記している。家族の訪問時、電話時、年一回の交流会において意見を求めている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日々のふれあいの中で、家族等からは来訪時や電話連絡時、運営推進会議時、年1回の経営者と家族等との懇談会時に意見や要望を出してもらえるよう努めている。 無記名のアンケートを実施し、「職員によって支援のレベルが違う」との意見を受け、職員がレベルアップするための外部研修への参加や資格取得のために勤務体制を整えるなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回代表者を含めたミーティングを行い職員の意見、提案を聞いている。	月1回代表者を含めたミーティングを開催し、職員の意見等を聞いているほか、管理者は職員が日頃から気軽に意見や要望、提案を出せるような雰囲気づくりに心がけている。 職員に無記名のアンケートを実施し、「祭りなどの行事を実施する際、職員の負担が大きい」との意見を受け、職員の負担が少なくなるよう準備に時間が取られ過ぎないように形に改善するなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格取得に向けた啓発、又、その努力に向けた給与の手当などがある。チームワークで働きやすい環境を整えている。又、基準に沿った労働時間を守っているが職員の体調面、家庭での事情で体制面で厳しい時があるがユニット間で調整し無理のないよう心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人に研修の場を与え職員のスキルアップを計っている。全職員が研修資料を閲覧する体制になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとお互いの運営推進会議に参加したり県地域密着型介護サービス協議会主催の会議、学習会に参加し同業者との交流を積極的に行うと共にサービスの質の向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから、利用者様の不安を少しでも軽減出来るような言葉かけをして、少しずつ信頼関係を築いて行ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学や相談等に来所された時に現在困っている事、現在に至る経過、要望などをお聞きしながら又、同居されている家族の御苦勞などを受け止め徐々に信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人の戸惑い、家族の不安などに対し少しでも安心して頂けるようどの様に接したらいいのか見極めて対応する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす中で話題を供給したり喜怒哀楽を共にし馴染みのある関係を作っていくようにしている。時間をかけて関わり信頼を深めるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に見えた時などは最近の様子や健康状況などをお話している。問題が起きた時などはご家族の方の意見も踏まえ解決していくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人などが面会に来られた時にはお茶やお茶菓子などをお出ししくつろいでお話が出るように努めている。	利用者の親戚や友人が来訪し、利用者が寛いだ気分でお話ができるようお茶やお菓子を準備するなどの配慮をしている。 2ヶ月に1回利用者と馴染みの関係を築いている訪問理容師の来訪があるほか、家族等の協力を得ながら利用者が自宅へ外泊したり、墓参りに行けるよう支援したりしているほか、行き付けの美容院や以前から続けているマッサージの継続利用など、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方、悪い方等を把握しより良い席作りを考えている。孤立してしまっているような時には本人が嫌がらない程度にレクなどに参加して頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族が訪問して下さったり、手紙、電話等で近況報告を取り合いこれまでの関係性を大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人の意向に沿った暮らし方ができる様思いを受け止める様にしている。困難であっても本人の気持ちを汲み取りスタッフ間で話し合い取り組める様にしている。	職員はアセスメントシートを活用して利用者の生活歴や思いを把握するとともに、日常のふれあいの中でさりげなく話しかけて希望や悩みなどを聴き、記録して全職員で共有しながら利用者の思いにそった支援に努めている。 思いを表わせない利用者の場合は家族等から話を聴いたり、話し方や表情、しぐさなどから思いを汲み取るように努め、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境等を把握し対話の中からも以前の暮らし方を尋ねたり共感するようにし馴染みの関係を作るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の流れ、過ごし方を把握している。心身状態は日によって違いその日の表情、言葉などから把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用前の面接やご家族等の意見を重視し職員の気づきによる意見、アイデアも反映させて介護計画を作成している。	介護計画は入居時の利用者や家族等の要望や情報を基に、職員の気づきや意見などを出し合い、計画作成担当者を中心に全職員で話し合って作成し、家族等の来訪時に説明して同意を得ている。 短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月と設定し、支援経過記録を基に毎月モニタリングを行っている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記ではそれぞれの体調面、感情面でのケア又、一日の生活の様子等具体的に記入し職員間で情報を取り入れADLの向上に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護サービスを提供する体制ができている。希望時には家族も宿泊できるなど柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者には近くのスーパーでの買い物、訪問して下さる床屋、以外にもそれぞれお気に入りの床屋、美容室へカット、毛染めなど自由に出かける事ができる。市内の神社、公園等を定期的に訪れ季節の変化を身体で感じて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にしままでのかかりつけ医の治療を受けられるよう支援している。提携病院による24時間の受信体制をと整え利用者に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医を担当医としている。 協力医療機関と24時間連携ができる体制を整えるとともに、提携している訪問看護ステーションの看護師が週1回来訪するほか、歯科医師による訪問診療が受診できるよう支援している。 協力医療機関への受診は職員が付き添い、それ以外は原則として家族等が付き添うとともに、受診結果は申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来て頂く訪問看護の方に個々の利用者の状態を伝えている。病気やけがなど緊急な時には電話連絡をし相談、指示を仰いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早い段階で退院できるよう本人、ご家族、医者との連携を計り退院計画の話し合い又、本人のストレスや不安を取り除く為できる限り本人の尊重を受容する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等の意思を尊重し事業所と医療関係者との連携を測る。事業所はできる範囲を家族等に十分説明し事業所全体で支援する。	重度化した場合の対応指針を作成し、契約時に事業所でできることとできないことを利用者や家族等に説明して同意を得ている。 重度化した場合や看取り介護に関する外部研修を受講した職員の研修報告を基にマニュアルを作成し、ユニット毎に内部研修を行って全職員で方針を共有し、重度化や終末期の支援に備えている。 事業所では看取りの経験があり、利用者の段階に応じて家族等と話し合いを重ね、かかりつけ医や訪問看護事業所と連携を図りながら看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時マニュアルを作成し全職員が発生時にあわてる事なく対応できるようにしている。今年度は応急手当の勉強会を行っていないが定期的に行って実践力を身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、消火訓練、避難訓練を消防署、セキュリティ委託会社の協力のもと年2回行い利用者、職員は避難場所を把握している。近隣住人には緊急時にはお手伝いいただけるようご挨拶している。	年2回消防署やセキュリティ委託会社社社会いのもと、夜間想定を含めた避難訓練を家族等や近隣住民の参加を得ながら実施している。 避難訓練実施後は課題や反省点を話し合っって記録するとともに改善に努めており、東日本大震災時の経験を基に受水槽の蛇口を外に付けたり、利用者へ避難の呼びかけがし易いようにサイレン付メガホンを用意するなど、改善に努めている。 災害の発生に備え食糧や飲料水、携帯ラジオ、懐中電灯、電池、カセットコンロなどを備蓄している。 食糧は非常食セットとして一人分づつ準備し、食品庫に保存して管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し親しみの関係を持ちながらも人生の先輩としての言葉かけ、名前を呼ぶ時は名字で呼ばせて頂いている。排泄介護等のズボンの上げ下げ等相手の気持ちを考慮しさりげなく行ったり「失礼します」等の言葉も使う。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し、特に排泄や入浴支援では誇りやプライバシーを損ねないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかるキャビネットに保管し、取り扱いには十分留意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を自己決定できるような言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まってはいるができる限り利用者のペースに合わせ希望を聞きいれながら楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り利用者の意見を聞きそれに合ったおしゃれができるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニュー等を利用者に知らせ好物であれば楽しみにして頂いたり又、その材料から他の献立方法を話し合ったりして話題を広げ楽しむ。食事前の準備等を利用者に手伝って頂きそれぞれが「ありがとう」や「お世話様」の気持ちを伝える。	献立は業者に委託しているが、利用者と職員と一緒に自家菜園で収穫した季節の野菜を活用したり、季節毎の行事食や出前、ドライブ時の外食などを取り入れ、食事に変化に富んだ楽しみなものとなるよう工夫している。 職員は利用者と一緒に会話をしながら和やかな雰囲気ですることができるよう支援するとともに、利用者は能力に応じてテーブルやお盆拭き、おしぼりたたみなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録の作成食事の摂取量、水分摂取量が一目でわかるように記入、不足している方には声かけにより不足を補えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、一部介助の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせて排泄介助を行っている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、タイミングを見計らいながら声かけやトイレ誘導をしているほか、利用者の状態に合わせて夜間だけポータブルトイレを使用するなど、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。 利用者一人ひとりの状態に適したおむつやリハビリパンツ、パッドの使用を検討し、利用者がより快適に過ごせるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェック。排便無が3日続く場合はその人に合った下剤を与薬。便秘にならないよう散歩、運動等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調不良の場合を除いては毎日入浴している。	基本的には一日おきで午後の入浴となっているが、利用者一人ひとりの体調や希望にそって毎日でも入浴ができるよう支援している。 季節感を味わえるよう菖蒲湯を取り入れるとともに、浴室にシャワーチェアを備えたり、着替え室の温度調節をしたりして、利用者が寛いだ気分で入浴ができるよう工夫している。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら言葉かけを工夫し、無理の無いように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の睡眠のリズムを把握したりその日の体調に合わせて休息を勧めている。どうしても眠れない時は側で見守りや話し相手になる等の方法を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	不安の時はいつでも個々のお薬明細表の確認をする様、職員間で理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳やおしぼりたみ、洗濯物たたみ等一人一人に合わせて役割をもって頂けるよう支援している。畑で季節ごとに野菜を作っており野菜作りや収穫をする事、畑の見学を兼ねての散歩等の支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見や紅葉狩りなど計画を立てて実施しており利用者の楽しみとなっている。	職員は天候や利用者の体調に配慮しながら、散歩や買い物に出かけられるよう支援をしている。計画を立てて初詣や花見、紅葉狩り、外食などに出かけているほか、桃苑祭りなどの地域の祭りへ出かけている。 利用者は家族等の協力を得ながら美容院へ出かけたたり、自宅への外泊や墓参りをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出支援の際に一緒に買い物に出かけている。買い物をする楽しみをもって頂き、お金の支払い等できることは自分で行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった時等は電話がかけられるよう又、本人がかけられないような時は職員がかけてあげる等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花壇を作ったり、四季折々の植物を飾りそれらを鑑賞したり外気浴にて利用者様同士のコミュニケーションの場となり気持ち良く過ごしていただける様な空間作りを行っている。	居間兼食堂に十分な採光を取り入れるとともに、温度管理をして居心地よく過ごせるよう配慮している。 玄関や居間兼食堂、廊下に観葉植物や季節の花を飾るほか、利用者と職員と一緒に制作した作品やクリスマスの飾り付けをして、季節感のある空間づくりをしている。 ベランダのプランターに季節の花を植え、利用者が水やりをしているほか、朝顔やゴーヤで緑のカーテンを作っている。 居間兼食堂に木の温もりが感じられるベンチやゆったりとしたソファを配置し、静かな音楽を流して利用者が穏やかな気持ちで過ごせるよう工夫している。 居間兼食堂の一角に小上がりの和室があり、ボランティアが演技を披露する時のステージとして活用しているほか、利用者が横になったり洗濯物を畳んだりする寛ぎの空間として活用している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ気心の合った利用者同士と一緒に居室でテレビ観賞をされたり居室で一人で音楽鑑賞をしたり利用者様一人一人思い思いに生活を送って頂けるように支援している。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや以前から使用されている物、仏壇やテレビ、家具等をお持ち頂いて入居前と変わらない生活、家でいる様に生活して頂ける様支援している。	居室にはエアコンやベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられている。 利用者は使い慣れたタンスや収納ケース、ソファー、机、椅子、目覚まし時計、テレビ、ラジオ、鏡台、化粧道具を持ち込んでいるほか、家族等の写真や手作りのクッション、ぬいぐるみ、週刊誌、鉢植の植物などを置いて、思い思いに居心地のよい部屋づくりをしている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に対応し出来る事、わかる事を支援し見守りを心掛けている。又、混乱するような物は職員同士で話し合い安全かつ自立した生活が送れるよう工夫を行っている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム お母さんの家

作成日 平成26年5月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束による利用者の身体的、精神的苦痛を理解する	身体拘束の時間を少しずつ減らしていく	経過観察、検討記録の書類の作成	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。